

NEWS ROOM

2018年8～9月のロジスティクスに関するニュースを中心に、さまざまな情報をコンパクトにお届けします。

ロジスティクスレポートニュース
《寄稿》

龍角散 大塚倉庫と共同物流を開始

大塚倉庫は8月20日、家庭薬メーカーの龍角散（東京・千代田区）と服薬補助ゼリーの物流で業務提携し、大塚倉庫のプラットフォームを利用した共同物流を開始したと発表した。

龍角散は近年のインバウンド需要や服薬補助ゼリーのヒットによる売り上げ拡大で大幅に物量が増加し、ドライバー不足などの物流環境悪化と相まって安定供給の維持を課題としていた。大塚倉庫の仕組みを使った在庫管理や配車の効率化、車両の積載率向上などにより課題の解決を図り、物流品質を維持する狙い。

今後は同商品だけでなく、一般医薬品（OTC）や食品の分野での共同物流も視野に入れる。（川本）

キュービーとライオン、JPR 共同幹線輸送をスタート

キュービーとライオン、日本パレットレンタル（JPR）は8月22日、トレーラーとフェリーを活用した共同幹線輸送を同日始めると発表した。トラックドライバー不足を受け、輸送の効率化を図る。

3社は関光汽船（山口県下関市）とオーシャンランス（東京）の協力を得て、東京～四国・九州間はフェリーとトレーラーを共同で活用。キュービーの調味料や加工食品、ライオンのハンドソープやボディソープなどを運ぶ。今年6月に関東～九州間でテストしたところ、実車率向上などの効果が確認できたという。3社は共同幹線輸送の実施で実車率が99%を超えるほか、運行スケジュールの明確化によるドライバーの負荷軽減などが見込めると説明している。（藤原）

アイカ工業 デポ2カ所を新設

化粧板・接着剤大手のアイカ工業は8月22日、新たな配送拠点2カ所を開設したと発表した。北関東向けの「宇都宮デポ」（栃木県市貝町）と沖縄向けの「沖縄デポ」（沖縄県浦添市）。物流拠点の配置最適化をさらに進め、配送効率の向上を目指す。宇都宮デポの設置で製品を毎

日運ぶ「定期便」の対象エリア拡大などを推進。沖縄デポは海上輸送の輸送ルート多様化と安定化につなげる計画。（藤原）



新設した「宇都宮デポ」（左）と「沖縄デポ」（アイカ工業提供）

《物流業界編》

東京流通センター 三井物産都市開発からPM業務受託

三菱地所傘下の東京流通センター（東京・大田区）は、三井物産都市開発から10月末に完成予定の新施設「板橋区新河岸1丁目物流センター」（仮称）の完

成前準備業務を8月16日受託した。同センターは地上4階建て、延べ床面積約9368平方メートル。首都高速池袋線の高島平ICから約2キロメートルに立地する。（川本）

福山通運 リトアニア物流企業と提携

福山通運は8月21日、リトアニアの物流企業UABホプトランスロジステイクスと業務提携したと発表した。同国を基点とした物流システムを共同開発し、福通は欧州向け貨物の取り扱い増加を実現したい考え。UABホプトランスは日本を含む東アジア向けの貨物を本格的に手掛ける意向。（藤原）

紙伝票電子化のための新会社設立 日本パレットレンタル

日本パレットレンタル（JPR）は9月3日、流通業界の紙伝票電子化を目的とする新会社TSUNAGUTEを設立したと発表した。新会社は物流容器伝票や商品伝票など全ての紙伝票の電子化に取り組み、企業間をつなぐデータ活用を推進。各種データの全体最適運用のための標準化・共用化サービスを提供していく。既に商品伝票運用の合理化や物流データの活用・高度化などに取り組んでいる企業や団体なども広く連携して

いく独立事業体として活動する。（石原）

大和ハウス工業 ベトナムで初のマルチ型施設



ベトナムの新物流倉庫の外観イメージ（大和ハウス工業提供）

大和ハウス工業は9月5日、ベトナム南部ドンナイ省の工業団地で同社初のマルチテナント型物流施設「Dプロジェクト・レンタルウェアハウス・ロックアップビンソン」を開発すると発表した。同国内外の物流企業などの需要獲得を目指す。

新施設は賃貸面積約3万2千平方メートルで、今年10月1日に工事を開始。さらにもう1棟建設し、2棟で計約6万2千平方メートルを確保する予定。冷凍・冷蔵用電源を取り入れるほか、太陽光発電システムも採用するなど、多様なニーズに応じられるよう配慮する。

大和ハウスはベトナムで既に双日、神鋼環境ソリューション（神戸市）と共同で工業団地を